

月報 岡崎の教育

11 月号

平成元年11月1日

発行/編集

岡崎市教育委員会

アルコールにおどる
ドライアイスの白煙に
未知の世界を知った君
「葉っぱが音を出して折れたぞ」
君の眼の輝きを
僕は 忘れない

コオロギを見つめる
あなたのやさしい眼
「このコオロギ、けがしてる…」
片足を失った虫に
あなたのやさしい心は
きつと 届くだろう

科学者の卵たちよ
発見のよろこびを
もつと もつと味わってくれ

科学者の卵たちよ
覚えておいてくれ
科学で一番大切なのは
命への思いやり

(僕の願い)



(見つめる眼-羽根小)

ふるさとシリーズ

この人に聞く



菊作り

石川勝二氏

日本の秋を代表する花と言えば、誰もが菊をあげることだろう。豪華絢爛な大輪の菊を好む人もあれば、清楚で可憐な中輪や小菊を好む人もあろう。その菊の魅力に引かれ、三十年以上も菊作りをされているのが、三河菊花協会会長の石川勝二氏である。

菊の魅力は、

「香りがいいことと上品なことですね。

下手に作ると醜いものができます。手を掛ければ掛けるほどいいものができます。それに励まされ、来年こそと初心に戻っては続けてきました。」とおっしゃる。

よい花の条件は、山が高く、縮まっていて、艶がよく、花びらがびちっとしていることだとのこと。

「よい花を咲かせる基本は、土です。自分ごととん納得できる土がしたい。心ある人は、知多の鶴の池へ冬の渇水期に行き、ほろほろのを寄せて取って来ます。腐葉土も自分の確信のもてる葉っぱがほしいですね。広葉樹のシイトチ、カシなら申し分ないです。ヨシ、ススキ、チガヤなどの枯れてこわくなつた物を裁断して混ぜると水の通りがよいので、この頃では使う人が増えています。」

土も葉も、御自身で幸田や安城、額田まで採りに行かれるそうである。

もう一つの基本は水かけだと言われる。「一つずつ水の食い方が違うから、顔を見てから水をやらなくてはいけません。朝五時に水をやり、昼萎びているのには、夕方少し水をやる。一日三回は顔を見るようにしています。」

菊は好気性の植物であるから、一日に一回は土を乾燥させて鉢の中を空気が通るようにしないと、根が腐ってしまうようである。土作りも水かけも、この菊の性質にうまく合わせるために、いろいろな工夫や苦勞を重ねておられるのだろう。

「自分の力（吸収する力）がないのに水や肥をたくさんやってもだめですね。肥を一遍にどしつとやると、そこだけ根が腐ってしまいます。腹痛をおこさないようにやるのが難しいです。」

一鉢一鉢顔を見て、それぞれに合った水や肥料の量を減してやるのが、よい花を咲かせる秘訣とのこと。また、家と一番環境のよい場所育てるのも大切だと言われる。朝日が当たり、日中もよく日が射し、強い西日は当たらない。風通しがよく、雨の当たらない所が望ましいそうである。

しかし、過保護はいけないと言われる。「去年は、かわいがり過ぎて失敗しました。菊は、寒さに一か月以上当てないとほけません。時なしに花が咲いてしまふんです。」

お話を伺うほどに菊と子供たちの顔が重なり、教育との共通点を感じられた。

生年月日 大正五年十月二十一日
住 所 岡崎市橋目町字勲介屋敷十二一



い場合が多い。ところが、この子供たちは、ことばにこだわってイメージ化しようと思命であった。教師の手堅い支えがあつてこそである。

ズームアップ

視聴覚指導員

高木和広

中学校一年社会科「文明の起こりと日本」のなりたち」の授業を参観した。

生徒は、前時に、NHK学校放送番組「稲作伝米」を視聴しており、本時は、これを生かしての授業であった。

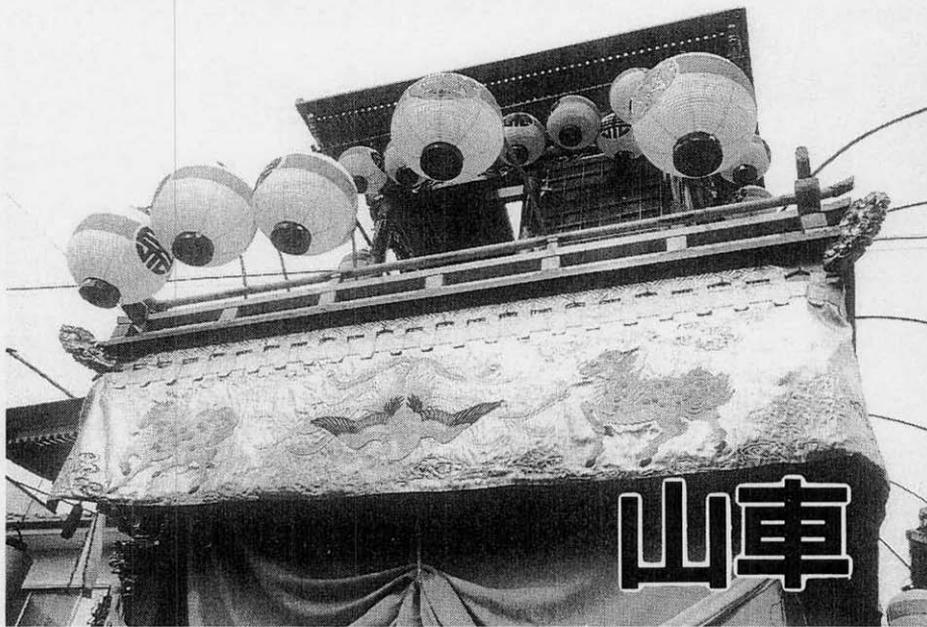
生徒は、前時の視聴カードやひとり調べのノートをもとに、弥生時代の様子を活発に発表していた。そこでは、前時の視聴がうまく活用されていた。

稲穂をたくわえておく高床式倉庫についての発表が行われ、ねずみがえしという工夫があることに話が進んだ。発表が途切れたとき、教師が教材提示装置を使い、テレビ画面に高床式倉庫全体を映し出した。その後、ねずみがえしの部分がズームアップされると、生徒の目は画面にくぎづけになった。

生徒は、小学校での学習で、ある程度の知識は持っていたであろう。しかし、それは何となくイメージ化できるにすぎない理解である。それが、全体と部分とのかかわりを、映像でタイミングよく提示することにより、倉庫の役割をしつかりとらえることができたのである。機器の特性を見事に生かした場面であった。

岡崎再見

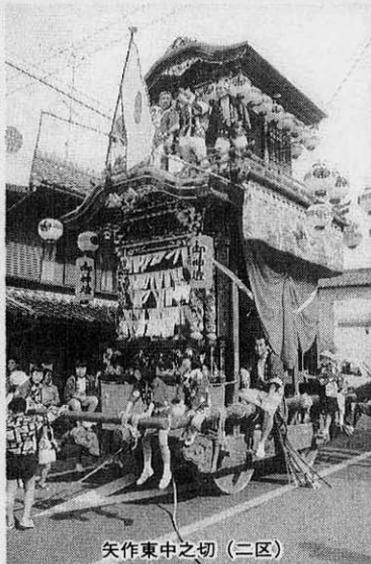
64



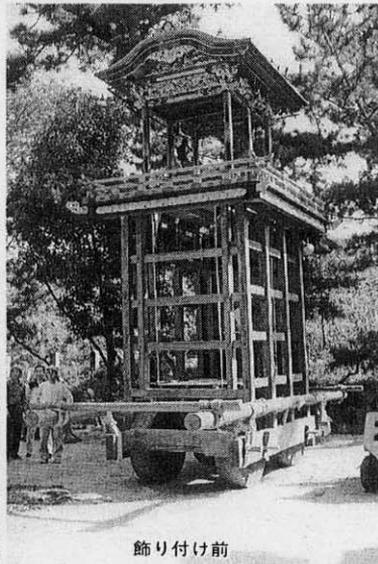
山車



矢作西中之切 (三区)



矢作東中之切 (二区)



飾り付け前

岡崎市内で現存し、祭りに引き出されているのは、矢作地区の二台と能見を中心とする神明宮の八台である。

矢作地区の二台は、江戸時代末期の文化・文政時代に製作されたものである。神明宮のものは古くからの部品を使った部分もあるが、ほとんどのものが戦後改造したり、新造されたものであり、車輪にタイヤを利用したものもある。矢作地区の二台に比べやや小振りではあるが、八台がそろった姿は壮観である。

山車はその地方によって、屋台(やたい)……高山、山車(だし)……愛知県各地、鉾(ほこ)……京都、壇尻(だんじり)……長崎、楽車(がくしゃ)、花車(はなぐるま)などさまざまな呼び名がある。



お囃子の練習に励む有志者



元能見北・城北・柿田



能見中之切



元能見中



元能見南



松本



能見南之切



材木三丁目



能見北之切

矢作神社には四つの祭り組があり、大正末期頃までは、それぞれの組が山車を持ち、祭礼の時にはマチ引きが競い合われていたという。

矢作神社の祭神は、京都祇園と同じ素戔鳴男命であり、祇園の鉾車にならったものと思われる。

以前は分解され、組の祭り小屋に保管されていたが、昭和四十三年岡崎市の文化財に指定され、保存庫に完成した形で格納されている。

今年十月一日・二日の秋祭りでは、六年振りにマチ引きが行われた。「ハーオ、ヨイハ」の合の手に乗って奏でられる祭り囃子の音とともに、旧国道沿いに集まった町民の目を楽しませた。

一方、元能見神明宮の大祭は、菅生神社、岡崎天満宮の祭礼と共に岡崎の三大祭りのひとつである。毎年、五月の第二土・日曜日に行われる。この祭りは江戸時代中期に始まったと伝えられている。

祭りの重要な行事は、神輿渡御（みこしとぎよ）と山車の練りである。神輿渡御は、神明宮の御神体（天照大神）が御神輿に移され、先獅子を先頭に行列を組み、各町内の御旅所を巡行する行事である。また、山車では、囃子と子供の手踊りが行われ、八町が競い合っている。

昭和六十一年度には、伝統的な祭りの伝承が認められて、岡崎市教育文化賞を受賞している。



低学年からの

調理体験

山中小 平野 泉

ヒマワリの種子とりの時期が近づいたある日、何かわくわくするような学習展開はないかと考えた。思いついたのは、食べることへの発展だった。

香ばしいにおいが家庭科室に広がったころ、

「もうちよつと塩をふろうよ。」
「いかん、ヒマワリの味がわからんくなっちゃう。」

慣れない手つきの二年生が、フライパンをつかみ、フライ返しでヒマワリの種をいためながら、塩かげんで意見がくい違ふ。すると、隣の班から歯切れの良

い声で、

「あつ、コンの味がするよ。」

昨年 of 国語教材を思い出した男の子が、一粒つまんで思わずつぶやいた。続々と味を確かめる子らの表情が満足げな表情に変わり、私もほっとする。

初体験。それは、緊張感の中にも喜びや驚きがあふれ、子供らの未知なる力が飛び出してくる。私はこの瞬間が大好きだ。子供の表情がたまらなく輝いているし、生き生きした会話を通して、前向きな意欲が、教材からは返返ってくるからである。

とりわけ、その初体験が食べることとなると、意欲も倍増する。食べる楽しみが調理する意欲をわかせる、その経験を通して技術や手順が身に着いてくる。そう信じてかわい二年生に、調理体験を重ねてきた。

初めは、サラダ作りであった。春から一人ずつ素焼きの大鉢で大事に育ててきたミニトマトを包丁で切つて、野菜サラダを作つた。この時、初めて包丁を手にした子供らも、次の粟を食べる頃には、ずいぶん慣れてきた。

学区の山で拾つた大粒の粟をゆでて食べた時のことである。初めてガスコンロに火を付け、

火かげんも調節した。ゆだった粟を包丁で半分になり、スプーンですくつて味わつた。この時

恐る恐るガスのスイッチをひねつていた子が、ヒマワリの油のための頃には、

「まかしといて。」
と、胸を張る進歩を見せた。

次の挑戦はパン作りとおしるこ作り。今、学年園の小豆の実が、この子らの手によって甘いおしるこになる日待っている。

教育日々



全員が選手

細川小 山本 浩二

「ピッチャー、中根。キャッチャー、城殿……。」

明日から始まる小学校女子ソフトボール大会を前にして、選手を発表した。子供たちの祈るような気持ちが私の体に伝わってくる。六年生の部員は二十一

名。ユニホームさえ着ることのできな子供もいる。

「レギュラーとそうでない者との区別はない。チーム全員の心が一つにならなければ勝つことはできない。」

と常日頃から言い続けて毎日の練習に励んできた。もちろん練習内容で差別せず、ノックでは全員が守備につき、バッティング練習も同じように行つてきた。

「そんなボールも捕れんのか。」と叱られ、涙を流しながら、

「もう一本お願いします。」と必死になってボールにくらいついてきたK子。フリーバッティングの時、いつも進んでキャッチャーをやつてくれたY子。

照りつける太陽の下、みんなに遅れまいと歯をくいしばつてラニングに励んだS子。

全員にユニホームを着せてやりたい。監督として一番辛い時である。名前を呼ばれた者は、ユニホームを手にして、

「明日はがんばろうね。」

と、互いに言い合っている。K子たちは唇をかみしめてじつと下を向いている。K子の目から涙が落ちてきた。

「明日はみんなの心を一つにしてがんばろう。」
と言って解散をした。そつとK

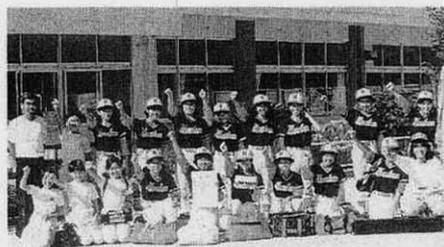
子を呼ぶ。

「本当によく練習にがんばつてきたな。」

いろいろと慰めの言葉をかけてやりたいと思つたが、たつた一言しか言えなかつた。K子はだまつてうなずくとそのまま走り去るようになって帰つて行った。大会が始まつた。順調に勝ち

進み、決勝戦の最終日、点差は四点、この回をおさえれば勝てる。無死から連続四球を出してあつという間に二点取られた。明らかにピッチャーは動揺している。タイムを取る。

「何も考えずに投げよ。」
と言つてベンチに帰ろうとした時、ベンチの後ろで、他の誰よりも大きな声で応援しているK子たちの姿が目映つた。





小中学校音楽パレード

盛大に繰り広げられる

十月十四日、岡崎市町村合併三十五周年、人口三十万人達成記念並びに交通安全推進の小中学校音楽パレードが、雲一つない秋空の下で盛大に行われた。

公園グラウンドでの開会式に続き、メルサ前から市役所まで、参加三十四校、三千六百人が次々と繰り広げる元氣一杯で華やかな音楽パレードに、沿道を埋め尽くした数万の市民から絶え間なく拍手が送られた。

中央協議会会長賞に城北中の熊崎君

電波障害防止図案コンクール
電波障害防止中央協議会の電波障害一掃運動月間(十月)を記念して行われた当コンクールで、城北中二年熊崎史紋君は、電波障害防止中央協議会会長賞の榮譽に輝いた。

■最優秀賞に奏梨小の本間さん
第三十九回全国小中学校作文コンクール県大会
当コンクールで奏梨小三年本間文子さんは、「姿を消した本間さんの作文は、全国大会へ県代表として応募される。

■中部大会出場へ矢中の永田君
高松杯第四十一回全日本中学校英語弁論大会県大会
十月七日、県青年会館で行われた当大会で、矢作中二年永田克巳君は、天安門事件に取材した「中国へのメッセージ」で、東京で行われる中部大会出場代表の五人の一人に選ばれた。

■知事賞に六ツ美中の鈴木さん
県内女子中学生英語弁論大会
県内の女子中学生五十二人が参加した当大会で、六ツ美中二年鈴木静香さんは、堂々の発表で最優秀の知事賞に輝いた。

■金賞受賞十三点
県統計グラフコンクール
第一部(小学校一〜三年生)
・高木由香里 都築祐美子
共同 梅園

・児島浩太郎 個人 三島
・児島 紀子 個人 三島
・中根 千寿 平野 由華
山内 美奈 共同 三島
別所 理子 個人 上地

・長谷川 崇羽 根 一年
・川添 秀和 三島 一年
・八木 裕子 井田 六年
・下釜 大亮 常磐 三年
・番場 康介 常磐 五年
・杉浦 輝昭 大樹寺 一年
・可児 尚希 甲山 一年
・太田 昌宏 甲山 二年
・大窪 彩乃 竜海 一年
・鈴木いつ保 竜海 二年
・大西 幸恵 竜海 三年
・大矢 奈美 竜海 三年
・中根 孝子 常磐 二年
・岩瀬 智宏 北 三年
・近藤 千晴 北 三年

◇第二部(小学校四〜六年生)
・佐々木祐志 個人 梅園
・大林亜紀子 鈴木沙耶花
共同 上地
・小森八千恵 大島 直子
共同 上地
・萩原 美子 坪井麻奈美
共同 北野

◇第三部(中学生)
・梅村 美樹 個人 葵
・榎井 哲也 大高 敏夫
共同 東海
・小林 由香 中根真由美
共同 竜南
・岩月 綾 村田 朋子
共同 竜南

■「あすの岡崎健康フェア'89」
小中学生の作品展入賞者
特選
◇習字の部(小学生)
・藤井 香織 梅園 三年
・木村江利子 梅園 五年
・深瀬 巖 梅園 六年
・三浦有美子 梅園 六年
・金森 雅美 羽根 三年
・及部 政希 連 尺 六年
・本田 敦子 竜谷 四年
・梅村 千乃 岩津 六年
・酒井 智美 大門 五年
・内藤由美子 六美北 四年
・内藤 陽子 六美北 六年

◇描画の部(小学生)
・宇野 美枝 美合 六年

・長谷川 崇羽 根 一年
・池田 剛 (岩津)
・野田 克志 (矢作北)
・金森 英樹 (竜南)
・鈴木智津子 (南)
・木村やよい (竜海)
・加藤このみ (葵)
・蒲野 敬子 (東海)
・松村 記世 (北)

・長谷川 崇羽 根 一年
・川添 秀和 三島 一年
・八木 裕子 井田 六年
・下釜 大亮 常磐 三年
・番場 康介 常磐 五年
・杉浦 輝昭 大樹寺 一年
・可児 尚希 甲山 一年
・太田 昌宏 甲山 二年
・大窪 彩乃 竜海 一年
・鈴木いつ保 竜海 二年
・大西 幸恵 竜海 三年
・大矢 奈美 竜海 三年
・中根 孝子 常磐 二年
・岩瀬 智宏 北 三年
・近藤 千晴 北 三年

◇ポスターの部(中学生)
・可児 尚希 甲山 一年
・太田 昌宏 甲山 二年
・大窪 彩乃 竜海 一年
・鈴木いつ保 竜海 二年
・大西 幸恵 竜海 三年
・大矢 奈美 竜海 三年
・中根 孝子 常磐 二年
・岩瀬 智宏 北 三年
・近藤 千晴 北 三年

■よい歯の児童・生徒
平成元年度、岡崎市よい歯の児童・生徒の審査の結果、優秀賞は次の通りである。
〈小学校六年〉
・長野誠一郎 (三島)
・諏訪 貴士 (竜美丘)
・杉浦 圭一 (福岡)
・畔柳 涼 (竜谷)
・阿部 竜久 (上地)
・青山奈美子 (福岡)
・森 寛恵 (藤川)

・鬼鞍 栄美 (常磐)
・長谷川惠美 (細川)
・長坂 尚子 (大樹寺)
・井口 勇作 (東海)

・加藤 惠吾 (常磐)
・池田 剛 (岩津)
・野田 克志 (矢作北)
・金森 英樹 (竜南)
・鈴木智津子 (南)
・木村やよい (竜海)
・加藤このみ (葵)
・蒲野 敬子 (東海)
・松村 記世 (北)

・長谷川 崇羽 根 一年
・池田 剛 (岩津)
・野田 克志 (矢作北)
・金森 英樹 (竜南)
・鈴木智津子 (南)
・木村やよい (竜海)
・加藤このみ (葵)
・蒲野 敬子 (東海)
・松村 記世 (北)

■交通事故無事故学校表彰
教職員数二十人以上の学校の五年間無事故、二十人未満の学校の七年間無事故の表彰式が行われ、十一校が表彰された。
表彰校は次の通りである。
五年間無事故
梅園小学校 根石小学校
三島小学校 連尺小学校
常磐小学校 小豆坂小学校
福岡中学校

七年間無事故
常磐南小学校 山中小学校
奏梨小学校 河合中学校
■教育委員に内藤美智子氏
教育委員矢田香子氏の任期満了(九月三十日)に伴い、十月一日より、内藤美智子氏が選任された。

教育委員の皆さんは次の通り。
教育委員長 前川 修
委員 長職務代理人 深田三太夫
委員 槽谷 正孝
委員 内藤美智子

教育委員の皆さんは次の通り。
教育委員長 前川 修
委員 長職務代理人 深田三太夫
委員 槽谷 正孝
委員 内藤美智子

教育委員の皆さんは次の通り。
教育委員長 前川 修
委員 長職務代理人 深田三太夫
委員 槽谷 正孝
委員 内藤美智子



岡崎市郷土館

メートル法 宣伝ちらし

大正十年(一九二一)四月、
度量衡法が改訂されて尺貫法を
メートル法に改めることとし、
大正十三年七月から実施される
こととなった。

このちらしは、岡崎市が大正
十四年に各家庭に配布したもの
である。実際には市民になかな
か受け入れられなかったようで
あり、宣伝文に次のようなもの
がある。

- 覚えやすくして間違いない
- 十進法で計算が便利
- 万国いたるところに通用する
- 度量衡互いに連絡がある

- ・表紙写真
- ・表紙詩
- ・カット

- | | |
|-----|-------|
| 羽根小 | 小田 泰史 |
| 羽根小 | 小田 泰史 |
| 羽根小 | 小田 泰史 |
| 矢作中 | 土井 誠司 |

○学問が実用となる

一方、国民への浸透・定着を
図るため、国定教科書について
も算数科を中心に単位にかかわ
る部分が改訂され、大正十五年
発行「第四期国定算数科」教科
書からセンチメートル、リット
ル、キログラム等の表記がされ
るようになった。

例えば三年上に「フロオケノ
中へ水ヲ一二五リットル入レ、
次ニ二五リットル入レ、ソノ次
ニ八十リットル入レタ。皆テ何
リットル入レタカ」という設問
もされている。



この本を

- *一文字日本史 秦 恒平 ￥1650
- 平凡社
- *からだの時間学 K・J・ローズ ￥1800
- HB J 出版局
- *「非まじめ」のすすめ 森 政弘 ￥320
- 講談社
- *教育と笑いの復権 堀内 守 ￥1200
- 玉川大学出版部

孔子 井上 靖 ￥2200
新潮社

論語の章句は、時に為政者の都合に合
わせて強調された。著者は春秋戦国の乱
世を背景に読み解いて、孔子の人間の魅
力を描き、天命の哲学の持つ明るい人間
信頼の姿こそ、今も変わらぬ人生原理と
説いている。

紀元前の物語ながら、読むほどに現在の
世相や国際情勢などと重なり合って、
小説世界というより文明に対する著者の
切実な願望が伝わってくる。絶望の淵に
あって絶望を断ち切る書と言える。

落葉搔痒りくたびれ搔掻きはじむ 朱城
夏には草取りに明け暮れた外庭掃除も、
秋の深まりとともに落ち葉かきに忙しい。
ほうきで掃くそばから舞い落ちる葉に閉
口しながらも、楽しみに落ち葉の山を作
っていく。「これで焼きたいした
らおいしいだろうな。思わず漏ら
した一言に子供たちの瞳が笑った。

オアシス

秋祭りも終わりを告げようとしている。
市の文化財、矢作二区の山車を見る機会
を得た。また、お囃子の練習風景も見学
させていただいた。

学級や学年、全校で催される収穫祭。
祭りというイベントに参加するだ
けでなく、裏方の苦労や自然の恵
みに感謝する心も育てたい。

白鳥会場へこの秋、岡崎からも
多くの児童、生徒が足を運んだ。
「自然・人間・技術の新しい関係
を創り出すデザイン」の力を子供たちは
どのように受け止めたであろうか。折し
もおかざきっ子展開催間近。作品の一つ
ひとつに注ぎ込まれた創造力こそ、未来
を築くデザインの力となるであろう。

寸暇を惜しむ放課時の職員室で、
寸暇を楽しむクイズがはやり出し
た。「九枚の金貨の内、一枚は偽
物で軽い。これを見つけ出すのに最低何
回でんびんを使わなければならないか」
発想の転換を必要とし、柔軟な思考が養
われる。職員室活性化にも一役かうこと
うけあい。ゆとりと充実の両立は難しい。